

復活節第6主日の説教

金 大烈 神父 2009年5月17日(日)

《キリストの愛にとどまること》

おはようございます。

先週は伊勢崎教会での司教様と共にするミサでしたので、出来なかった母の日のお祝いを今日のミサを通して行ないます。ミサに与っているあらゆるお母さんの方々、本当におめでとうでございます。

今日の福音は信徒として胸に刻まなくてはいけない言葉が話されていますので、まとめることで説教にしたいと思います。

今日の福音(ヨハネ 15・9-17)では、「皆様が選んだキリストではなくて、皆様を選んだ」キリストとの愛にとどまらなければならないとおっしゃいました。そして、「その皆様が選んだイエス様ではなくて、皆様を選んだ」イエス様の愛に留まる事が出来れば何を得られるとおっしゃいましたか？絶対変わらない真の喜びを得るとおっしゃいました。他の所にとどまるのではなく、「皆様を選んだ」イエス・キリストのその愛にとどまれば変わらない喜びを得られると話されていることです。そしてこう言いました。その喜びを最後まで守るためには互いに愛し合うことである。つまり今まで一生懸命求めていた喜びを得る為にはキリストの愛に留まらなければならない。キリスト信者であることと関わらずキリストの愛に留まらなかったら、その人は無駄な時間を過ごしている事になります。

そのキリストの愛の言葉の唯一の方法は愛を実践することであることをイエス様は仰ったのです。そして、その後、あなたがたが私の愛にとどまったら私はあなた方を友と呼ぶとも話されています。

このヨハネ 15章9節から17節は、私が個人的に黙想指導するときによく使います。なぜなら御父と御子の御旨が一番きれいにまとめられている箇所だからです。いろいろな言葉がこの中に言われています。今日の内容も納得し理解し実践が出来れば、私たちは相応しいキリストの弟子たちになったと言ってもいいと思います。

出来ればこの今日の福音の箇所を印刷して下さい、そして一番よく見えるところに貼って置き、毎日朝や夜寝る前などに読んでください。

お母さんの日『おめでとうでございます。』

この世の中のあらゆる人間の故郷と言え、そこはどこでしょうか？そうです。お母さんです。ですからお母さんという言葉は故郷のように哀切で懐かしい言葉だと思います。赤ちゃんの時、子供の時、今までの思い出と共に自分の顔に現れるのはお母さんの顔です。即ち、全ての子供の顔には母の顔があります。

そして子供たちはお母さんにとってどんな存在でしょうか？一言でいえば『十字架』です。りっぱな子供になっても生きている間は『十字架』です。もしその子供が先に死んでもその子供は母にとっては『十字架』です。キリスト者にとって十字架は負うものでないと何回も話しました。それは抱きしめる存在だからです。

皆様、私達は皆、お母さんという故郷を持っています、そして子供たちは故郷としていつもお母さんのことを思い出します。

女性は弱い存在ですが、お母さんは強く偉大な存在だと言われています。ある意味で歴史を変えているのはお母さんかもしれません。

お母さんと言う言葉のイメージは何でしょう？一番は涙でしょう。子供の為にいつも涙を流さなくてはならない状況にあるのはお母さんでしょう。お母さんは子供たちを恵みの十字架として受け入れているからです。

皆にはお母さんがいます。そのお母さんを思い出しましょう、もう既に亡くなられたお母さんもい

らっしゃると思います、生きているお母さんもいらっしゃいます。そして、母になっている皆様の事をも考えながらこのミサを捧げましょう。

お母さんが子供達にとって、一番いい休みが取れる力をいただける故郷になるようにイエス様いつもお守り下さいと祈りとともにこのミサを捧げます。

お母さんは一番あたたかく、きれいでそして人間にとって必要な言葉だと思います。その母性は神様が下さった一番偉大な賜物。その母性について私達はどの位すばらしく、その姿を守りながら今まで来たのかこのミサを通して、もう一度振り返ってみましょう。私も皆様もこのミサはお母さんの為に、そしてお母さんである皆様の為に捧げたいです。

ありがとうございました。